

# さとうきびにおける ツマジロクサヨトウ防除対策について

## ○幼虫の特徴

### 実際の大きさ

(老齢幼虫)



排出直後は球形に近い。  
色は様々。（写真はとう  
もろこしの被害）

（若齢幼虫（ふ化して間もない小さい幼虫）を発見した場合は、老齢幼虫（さなぎになる前の大きい幼虫）を探すか病害虫防除所に相談すること）



淡色の『逆Y字』紋がある。  
淡褐色の網目模様がある。

大きな黒斑がある。

## ○食害の状況

★ツマジロクサヨトウは、若くて柔らかい部位を好んで食害する

### ① 茎の先端部



### ② 茎



### ③ 葉

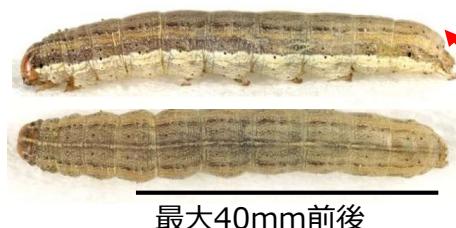


体長が約2cm以上の幼虫で見られる特徴



# ○ツマジロクサヨトウと本作物で見られる他の幼虫の違い

## ◆ アワヨトウ

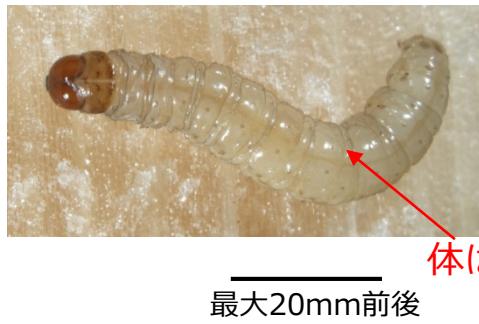


顯著な黒斑なし



正面に2本の黒帯

## ◆ カンシャシンクイハマキ



体は透明感がある白色



一様に赤褐色

## ◆ イネヨトウ



写真提供：沖縄県

体は淡黄色～淡褐色

顯著な黒斑なし

頭部は一様に赤褐色

最大40mm前後

## ◆ アフリカシロナヨトウ



群生相 (暗色)

孤独相 (淡緑色)

長い白筋

顯著な黒斑なし

大部分が黒色

網目は目立たない

群生相 (暗色)

頭部



写真提供：沖縄県

孤独相 (淡緑色)

暗色の縦帶

最大50mm前後



体がほぼ黒色になる場合もある

幼虫写真の下の黒線は実際の大きさを示す

## 1. 調査方法

ほ場におけるツマジロクサヨトウの調査は、幼虫が葉などを食害した痕や虫ふんなどの有無を確認することにより行う。

幼虫による被害は、ほ場内の一部のみに発生することがあるため、可能な限り、ほ場内に立入り、ほ場全体を広く目で見て調査する。

## 2. 防除対策

### (1) 早期発見

生育初期に幼虫に食害されると被害が大きくなるため、ほ場を定期的に見回り、早期発見に努める。

(注) ツマジロクサヨトウと疑われる虫を発見した際は、速やかに病害虫防除所や普及指導センター等に連絡してください。

### (2) 早期防除

発生ほ場では、農薬リスト（別紙）を参考に農薬による防除を実施する。散布にあたっては、新葉の葉しよう基部に潜り込んでいる幼虫に届くよう、株の上部までしっかりと散布する。

粒剤は、防除効果が現れるまで時間を要することが多いため、粒剤を施用したほ場において発生が続く場合には、速効性のある農薬による追加散布を行う。

老齢幼虫になると農薬の効果が低下するため、可能な限り、若齢幼虫のうちに防除することが望ましい。

なお、周辺作物への農薬の飛散（ドリフト）には十分注意する。

(注1) 農薬の使用に当たり、不明なことがある場合には、病害虫防除所や普及指導センター等関係機関に相談してください。

(注2) 農薬リスト（別紙）に記載した農薬は、現在のところ、ツマジロクサヨトウに対して登録はありませんが、植物防疫法第29条第1項の規定により、発生場所の都道府県の指導により防除を行う場合に限り使用が可能です。また、記載されている希釈倍率、使用方法、使用時期、散布量、回数を守ることで、出荷停止等、流通に支障が出ることもありません。

### (3) 収穫後の対応

収穫後に残った株や土壤中に幼虫やさなぎが残存している可能性があるため、収穫後は速やかに複数回の耕うんを行う。

なお、株出し栽培等により、収穫後に耕うんしないで同一のほ場で継続して栽培する場合には、農薬の散布、土壤混和等による防除を行う。

### 3. 前作に発生が確認されたほ場等における防除

(1) 土壤中にさなぎが残存している可能性があるため、収穫後は速やかに複数回の耕うんを行い、残存害虫を駆除してから新たに定植する。

なお、株出し栽培等により、収穫後に耕うんしないで同一のほ場で継続して栽培する場合には、農薬の散布、土壤混和等により予防的防除を行うとともに、定期的な見回りによる早期発見に努める。

(2) 生育初期に幼虫に食害されると被害が大きくなるため、ほ場を定期的に見回り、早期発見に努め、発生を確認したら直ちに農薬の散布、土壤混和等を行う。

(3) 前作に発生が確認されたほ場の周辺ほ場においても、定期的に見回りを行い、早期発見、早期防除に努める。

(別紙)

【農薬リスト】さとうきび（抜粋）

○さとうきび

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釀倍数 使用量	本剤の使 用回数
クロラントラニ リプロール水 和剤	散布	収穫 30 日前まで	100～300L/10a	5000 倍	3 回以内
	無人航空 機による 散布	収穫 30 日前まで	2.4L/10a	50 倍	3 回以内
クロラントラニ リプロール ・ジノテフラン 水和剤	散布	収穫 45 日前まで	100～300L/10a	2000 倍	3 回以内

(注1) 2021年3月現在。実際の農薬散布に当たっては、最新情報を確認すること。

(注2) 農薬の使用方法の詳細情報につきましては、こちらでご確認いただけます。

<https://pesticide.maff.go.jp/>